

牛乳パックの鉢うえくん



ねらい



身近な植物を扱い、観察することによって緑に対する意識を高める。
土に触れる。/ 植物のよく育つ土 環境を考える。
自分で造形したうつわで実際に自分で緑を育てる。

対象



幼稚園年長～小学校高学年

材料



牛乳パック・土 (赤玉 / 腐葉土 / くんたん / 鉢底石など) 根腐れ防止土
ヘデラ (アイビー) ・ミントなど植物 (つる性のものが好ましい) ・水
ジェッソ・アクリル絵の具
その他 マジック、色紙、ボンド、カッター、ハサミなど

所要時間



1時間以上～

作り方



準備作業

ヘデラやミントなど、使う植物のしこみ。

* こども達が少々手荒にあつかっても平気そうな強い品種をつかうとよい。

(ここで扱っている、ヘデラ・ミント・ローズマリー はとても丈夫で育ちやすい品種。)

植え込む窓 (穴) が小さいため根っこが張っている苗を使うとやりにくいので、挿し木をして根っこがでた苗を作っておく (水に挿す方法でよい。)

* 挿し木は人数が多い時にも苗を増やすのに有効なやり方。

* また挿し木は温かい時期に発根しやすい。また挿し木しにくい植物もあるので事前に調べて下さい。

* 一般にヘデラやミント・ローズマリーなどのハーブ類は挿し木でふやしやすい。

* この作業も2週間くらい前に学級でやっておくと、使う植物との関わりが濃くなっていいと思う。

(挿し木で発根させるのに十分な期間をとっておく。)

場の作り方

はじめから培養土などを使うのではなく赤玉土、腐葉土、くんたん、根腐れ防止土、鉢底石 (土の配合、土の種類なども園芸の本などを参照して下さい。) などボールなどにわけて置いておくと、その土の違いがはっきり分かっておもしろい。土にまぜられるタイプの肥料などもあったりすると、“とっておき感”もたせる。それをこども達にミックスさせる。



そして、いよいよ作業です。

牛乳パックにジェットン、または白のアクリルを塗る。

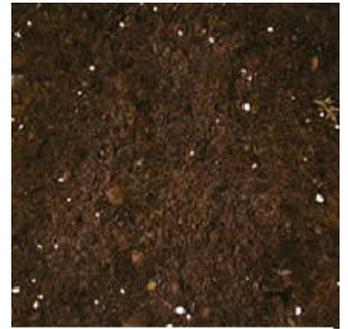
(絵、模様を描くための下地を作る。)

牛乳パックの絵の具を乾かしている間、土をよくまぜて配合土をつくっておく

* その時、各土の簡単な役割、性質を説明する。

* 根腐れ防止土、鉢底石は別にとっておく

時間があれば簡単な土遊びをして土と親しんでおく



牛乳パックの絵の具が乾いたら、牛乳パックの側面(両側)にカッターで苗を入れるための窓(穴)を作る。この時、苗が手のような感じにパーツになるので、なるべくパックの半分より上の部分に窓を作る。

(苗を育てるためにもそれが好ましい)



鉢底石を底1~2cm分入れる。

つづいて根腐れ防止土を少々入れる。(鉢底に穴をあけないため入れておくと植物が腐りにくくなるので安心。またどの程度入れるかはその根腐れ防止土の説明書きを参照して下さい。)

開けた窓の1~2cm下ぐらいまでまぜた土を入れる。

それから苗を両側にいれ、-----の線まで、またまぜた土を入れる。



植え込みが終わったら、牛乳パックの周りを好きなように(絵を描いたり、色紙を使って模様をつけたりして)飾り付ける。

最後にコップ2~3杯ぐらい水やりをする。

* その後の水やり、育て方は植物によるので、苗の種類によって説明する。

できあがり!

参考作品



幼稚園年長さん作品



小学校低学年の作品

